

(別記様式第 15 号)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

白馬村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備
事業費		604,560 円 (うち支援金: 604,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

近年、有害鳥獣が里に出没しており、里山の森林を整備することにより見通しを良くして、鳥獣を寄せ付けない環境を作る必要がある。また、この里山は城山であり、地域住民や観光客が利用する山中を周遊できる遊歩道等もあることから、整備が必要である。

(2) 本事業の目的

地区住民及び観光客の安全と農作物の被害の防止を図る。

事業内容

(1) 実施場所 白馬村大字北城 塩島

(2) 対象者 塩島地区森林整備協議会等地域住民

(3) 実施方法 スギ林は 2 割程度を間伐。自然景観が美しい場所でもあり、景観を破壊しないよう整備する。灌木類が繁茂し場所は刈払いを行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~34 年度)

緩衝帯整備 10ha なお、城山は H28 から着手し本年度にて完了

②平成 30 年度実績

1.99ha の緩衝帯整備 (間伐 1.63ha 除伐 0.36ha)



事業効果

1) 事業実施による効果

見通しの良い里山となり、野生鳥獣の出没が減った。また、近隣の農作物被害も減少している。

(2) 継続性

事業効果が見込まれるため、継続することにより野生鳥獣の出没しにくい環境整備の継続が必要である。

(3) 普及性

見通しの良い里山となるとともに、野生鳥獣の出没が減少することにより、地域住民への森林整備の必要性を普及することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

野生鳥獣の出没しにくい環境の整備が進み、事業効果は高いと考えられる。また、里山の整備が進み、景観の改善にも効果が認められた。

(2) 課題

村内の里山には手入れの行き届かない森林が残されていることから、野生鳥獣の出没しにくい森林づくりのために、緩衝帯整備を継続する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

村内の里山整備を推進し、野生鳥獣被害の出現を減少させる必要がある。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

白馬村

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	ナラ枯れ伐倒駆除
事業費		235,440 円 (うち支援金: 215,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

どんぐり区域は、ナラの生育が非常に多く開発地として多くの住宅が点在している。数年前にもナラ枯れが多々発生しており一時的に落ち着いたものの、昨年より発生が確認されている。

(2) 本事業の目的

ナラ枯れ(カシナガキクイムシ)の伐倒駆除を行い被害拡大を防止するとともに、枯損木の住宅等への倒木被害を予防する。

事業内容

(1) 実施場所 白馬村大字北城 どんぐり区

(2) 対象者 個人

(3) 実施方法 伐倒駆除

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画(平成 30~34 年度)

被害確認に伴い随時実施

② 平成 30 年度実績

伐倒駆除 2 本



事業効果

(1) 事業実施による効果

適期の伐倒燻蒸処理によりナラ枯れ被害の拡大を最小限にする。

(2) 継続性

引き続き、被害が確認された時には、適期に伐倒燻蒸処理を行いナラ枯れ被害の拡大を最小限にする必要がある。さらに、被害木の放置による倒木被害を未然に防止し、地域住民の安全確保に繋げる必要がある。

(3) 普及性

被害拡大を最小限とすることで、村内ナラ類の森林資源保全を図られ、地域住民の森林保全への気運の醸成が図られる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

ナラ枯れ被害の拡大を予防し手を入れてきた庭木への被害防止や、伐木による処理によっての拡大防止を図ることができた。

(2) 課題

村内におけるナラ枯れ被害の発生状況を常に把握し、被害確認時には適切な処理を行える体制づくりを進める必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

村内で発生したナラ枯れ被害の駆除実施

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)